

行田市在宅医療・介護連携推進協議会作業部会 平成 30 年度検討内容及び平成 31 年度事業内容について

【方針】（第 7 期介護保険事業計画より）

- たとえ疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を継続していくことのできる包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供体制の構築
- 医療と介護が有機的に連携し、最期の看取りまでができる体制づくり
- 市が中心となり、地域の関係機関の連携体制の整備を図り、在宅医療・介護の一体的な提供体制の構築に向け、連携における課題の解決のための協議や事業の展開
- 市民が自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を継続できるという安心感を持つことができ、医療、介護に対する市民満足度を向上する。

【平成 30 年度作業部会実施内容】

部会名	平成 30 年度協議及び実施内容	開催数
入退院調整部会	市民が円滑に入退院できる仕組みの検討 「市民と医療・介護連携のための行田市入退院調整手引き」第 1 版作成 説明会 3 回（ケマアネ連絡会、市内 2 病院） 10 月 1 日～本稼働	1 回
患者情報共有・ICT 部会	MCS の利用方法、普及 多職種が、在宅患者（利用者）を本人及び家族を交えて、共有するためのノート作成 「～笑顔でゆくために～「わたしの人生ファイル」（行田市在宅医療介護連携）」作成	5 回
ふらっと（研修）部会	多職種が連携するための研修、相互理解の研修、多職種の顔の見える関係構築のための研修の企画検討 第 1 回、第 2 回研修会「摂食嚥下研修」Ⅰ・Ⅱ 第 6 回行田市在宅医療介護連携推進に係る多職種合同意見交換会 第 3 回研修会「医療・介護の連携強化に向けた施策動向とそのポイント」	6 回
普及啓発部会	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して過ごせるための施策（在宅医療と介護連携）についての周知、広報誌企画検討 在宅医療・介護連携推進事業広報誌「行田人」自治会回覧、関係機関配布 第 1 号誌：平成 30 年 6 月 12 日 5,000 部 第 2 号誌：平成 30 年 11 月 14 日 9,500 部 第 3 号誌：平成 31 年 3 月 13 日 9,700 部	4 回
病院・有床部会	「市民と医療・介護連携のための行田市入退院調整手引き」 第 1 版作成におけるシート作成による情報連携方法及び説明会実施の協議	1 回

【在宅医療・介護連携における行田市の課題】

研修アンケートの回答から・・・キーワード

コミュニケーション 患者・利用者連絡のタイミング 医療専門用語 MCSや情報通信技術の活用 往診医の数 お互いの現場の理解（臨床と地域、介護と医療など） 医師との連絡の取りにくさ 病院MSWとの連携 高齢者施設や社会資源への理解 関係職の力の差

【平成 31 年度作業部会予定】

部会と役割	平成 31 年度予定	予算	課題
入退院調整部会 ・円滑な入退院調整 ・市民が安心できる入退院と在宅復帰	「市民と医療・介護連携のための行田市入退院調整手引き」の利用アンケート調査実施意向あり。		入退院調整の手引きの活用 連携の重要職種（MSW、看護師、CM）のスキルアップ
患者情報共有・ICT部会 ・市民が安心できる医療、介護体制構築 ・市民、家族と多職種の円滑な情報共有	配布方法、設置箇所の検討 ファイルの周知	「わたしの人生ファイル」作成費 683,000 円	患者情報共有ツール①わたしの人生ファイルの配布、周知、活用 医師との連携における課題解決
ふらっと（研修）部会 ・市民が安心できる医療、介護体制構築 ・医療、介護が相互理解し連携できる。	研修会 「介護保険を知る」 6月 「摂食嚥下研修会」 10月 「多職種合同意見交換会」 1月	研修会 講師謝金 140,000 円 研修材料費 41,000 円	医療、介護職相互理解 研修を通じての多職種の顔の見える関係づくり
普及啓発部会 ・地域包括ケアシステム、在宅医療・介護連携についての理解、市民への普及啓発	広報誌「行田人」 年 3 回発行 7月、11月、3月	「広報誌行田人」 印刷費 727,000 円 介護保険パンフレット印刷費 189,000 円	市民の理解 医療、介護職の理解
病院・有床部会	未定		臨床と地域の理解 地域との連携体制構築